

地域資源を活用したゼロ・ウェストなまちづくり

自治体名：徳島県上勝町

1. 地域の特徴と課題及び目標

上勝町は、人口1,380人（2020年国勢調査）の少子高齢化が進む四国で一番小さい町であり、少子高齢化・人口減少により、地域経済が衰退するだけでなく、担い手や後継者不足を招き、集落では様々な基盤の維持が困難になってきている。その中でも、日本料理に添える葉っぱ「いどり」の出荷及び、2030年までにごみになるものゼロを目指すゼロ・ウェスト政策により全国的に注目を浴び、持続可能な社会づくりを行っている。町の豊かな自然や森林資源を活用し、交流人口増加とUターン者の移住拡大により地域活性化を目指す。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

本町の約88%が林野面積であり、そのほとんどが杉や檜の針葉林である。林業については、単年度では収益が上がらないため、林間で葉わさび等を栽培する「アグロフォレストリー」で荒れた森林の整備及び農業において単年度収益を得られるように取り組む。また、山林をヘルスツーリズムや健康プログラム等に活用し、「ローカルベンチャー」等の起業家の育成により雇用創出を図る。さらに、ゼロ・ウェストの理念に共鳴していただいた企業や個人が集まり、グリーンテクノロジーのイノベーションを起こしやすい環境をつくり、持続可能なまちを目指す。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

- ①いどり（葉っぱビジネス）を活用した産業振興事業
彩山をフィールドとした有料のインターンシッププログラムを行い、就業体験により、いどりビジネスのノウハウを習得する。また、町内宿泊施設の利用を行い、経済にも寄与させていく。
- ②ゼロ・ウェストを活用した産業振興事業
有料の10日～15日程度の滞在・体験型「ゼロ・ウェストプログラム」を構築し、ゼロ・ウェストを国内及び世界に発信することにより、民間企業を取り込み産業を活性化させていく。また、プログラムを通して、関係人口、民間企業を巻き込み、理念を共有できる人材の育成を行う。
- ③森林保全による担い手育成及び脱炭素推進事業
民有林を一定期間無償で借り受け、林業の担い手育成のための実習フィールドとして活用し、林業家の育成、森林整備を行うことにより森林本来の機能を取り戻し、CO2吸収の効果を上げる。また、企業より協力金を募り、経費の確保を行い、継続的なサイクルを確立させていく。

5. 取組推進の工夫

役場職員・地域住民より組織する上勝町SDGs推進委員会を設置し、SDGs推進プログラムの実施を行っている。また、町の最上位計画（総合計画）となる第4次上勝町活性化振興計画の基本構想等にSDGsの考え方なども盛り込み町をあげて取り組んでいる。

6. 取組成果

- ①いどり（葉っぱビジネス）を活用した産業振興事業
 - ・ヘルスツーリズム受入数：2020年78人→2023年194人
 - ・新規就農者及び彩関連ビジネス創出者数：2020年9人→2023年13人
- ②ゼロ・ウェストを活用した産業振興事業
 - ・ゼロ・ウェスト関連新規事業所数：2020年5事業所→2023年10営業所
 - ・企業版ふるさと納材寄附企業数：2020年0社→2023年0社（累計2社）
- ③森林保全による担い手育成及び脱炭素推進事業
 - ・森林整備面積：2020年0ha→2023年114ha
 - ・林業家担い手育成者数：2020年0人→2023年7人

7. 今後の展開策

- ①彩山を活用した産業振興、起業促進拠点とし、貸事務所の利用促進（2022年度竣工）、ローカルベンチャー等、起業家の育成。
- ②ゼロ・ウェストタウン計画 2021年度策定。2022年から実行。ゼロ・ウェスト関連業務を担う法人を設立（2024年度）。ゼロ・ウェスト関連の視察・観光を充実させるなど、自走を目指す。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

SDGsのゴールにむけて、上勝町SDGs推進委員会を設置を継続し、推進事業を実施中。また、修学旅行や、ワーケーションの受け入れについても、SDGsプランも構築し、受け入れ中。

SDGs未来都市進捗状況結果報告シート

2018年度選定

徳島県 上勝町

2024年10月

SDGs未来都市計画名

地域資源を活用したゼロ・ウェストなまちづくり

徳島県上勝町 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

（1）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年	2030年（目標値）	達成度 （%）	第3期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	葉わさび出荷数量【2.3、2.4、15.2】	2021年3月 3,400 kg/年	2023年 5386 kg/年	2030年 12,000 kg/年	23%	第3期計画へ反映
2	林間葉わさび作付面積【2.3、2.4、15.2】	2021年3月 500 ㎡（累計）	2023年 500 ㎡（累計）	2030年 1,000 ㎡（累計）	0%	第3期計画へ反映 作付面積の増加に向けて㈱いろどりや葉わさび部会と取り組みを進める
3	新規就農者数【8.3、8.9】	2021年3月 9 経営体増（累計）	2023年 13 経営体増（累計）	2030年 15 経営体増（累計）	67%	第3期計画へ反映
4	新規起業家人数【8.3、8.9】	2021年3月 12 人（累計）	2023年 18 人（累計）	2030年 15 人（累計）	200%	第3期計画へ反映
5	起業家型人材の地域へのマッチング数【8.3、8.9】	2021年3月 24.0 人（累計）	2023年 24 人（累計）	2030年 60 人（累計）	0%	第3期計画へ反映 ローカルベンチャースクールが開催できていないため、開催に向けて調整するとともに、地域おこし協力隊制度を活用するなどマッチングに努める。
6	ヘルスツーリズム受入数（年間）【3.4、8.9、15.2】	2021年3月 78.0 人/年	2023年 194 人/年	2030年 300 人/年	52%	第3期計画へ反映
7	町の資源を活用した健康プログラム開発件数【3.4、8.9、15.2】	2021年3月 3.0 件（累計）	2023年 2 件（累計）	2030年 15 件（累計）	-8%	第3期計画へ反映 コロナ以降、プログラム開発が未着手であるため、町内事業所と連携し開発に取り組む。
8	ローカルベンチャースクール開催数【4.4、8.3】	2021年3月 2.0 回/年	2023年 0 回/年	2030年 4 回/年	-100%	第3期計画へ反映 ローカルベンチャースクールが開催できていないため、開催に向けて調整していく。
9	町産材を活用した建築物の増【11.c】	2021年3月 1.0 件（累計）	2023年 3 件（累計）	2030年 5 件（累計）	50%	第3期計画へ反映
10	ゼロ・ウェイスト関連新規事業所数【9.4、12.5、12.a、13.2、17.7、17.17】	2021年3月 6 事業所（累計）	2023年 10 事業所（累計）	2030年 15 事業所（累計）	44%	第3期計画へ反映
11	ごみのリサイクル率【9.4、12.5、12.a、13.2、17.7、17.17】	2021年3月 81 %	2023年 76 %	2030年 85 %	-114%	第3期計画へ反映 空き家整理等の影響から、ごみの全体量の内、焼却・埋立ごみの割合が増加したため、できるだけ資源化に努める。
12	くるくるショップの横展開数【9.4、12.5、12.a、13.2、17.7、17.17】	2021年3月 2 件（累計）	2023年 2 件（累計）	2030年 10 件（累計）	0%	第3期計画へ反映 他地域で展開されていても把握できていないケースがあるため、情報収集に努めるとともに、視察者やメディアに向けた情報発信を積極的に行っていく。
13	企業版ふるさと納税寄附企業数【9.4、12.5、12.a、13.2、17.7、17.17】	2021年3月 0.0 社	2023年 0 社	2030年 5.0 社	0%	第3期計画へ反映 累計では2社あるため、引き続き企業数の増に努める。

徳島県上勝町 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

（2）自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)	第3期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	いもどり（葉っぱビジネス）を活用した産業振興事業	①いもどり農業等体験プログラムへの参加者数	2021年3月0名	2023年7名	2023年60名	12%	第3期計画へ反映 コロナ以降、プログラムが開催できていないため、開催に向けて調整を進める。
		②いもどり農業等体験プログラムの売上創出額	2021年3月0円	2023年0万円	2023年480万円	0%	第3期計画へ反映 コロナ以降、プログラムが開催できていないため、開催に向けて調整を進める。
		③新規就農者及び彩関連ビジネス創出者数	2021年3月9名	2023年13名	2023年12名	133%	第3期計画へ反映
2	ゼロ・ウェイストを活用した産業振興事業	①ゼロ・ウェイスト体験プログラム参加者数	2021年3月0名	2023年11名	2023年150名	7%	第3期計画へ反映 プログラム開発しながら提供体制を整えているところである。
		②ゼロ・ウェイスト体験プログラムの売上創出額	2021年3月0円	2023年0万円	2023年1,200万円	0%	第3期計画へ反映 プログラム開発しながら提供体制を整えているところである。
		③ゼロ・ウェイスト関連新規事業及び事業所数	2021年3月5事業（所）	2023年10事業（所）	2023年8事業（所）	167%	第3期計画へ反映
3	森林保全による担い手育成及び脱炭素推進事業	①実習森林フィールドの確保面積	2021年3月0ha	2023年0ha	2023年20ha	0%	第3期計画へ反映 現状、②の森林整備面積が実習に使われていることもあるため、①の面積の算出方法を検討する余地あり。
		②森林整備面積	2021年3月0ha	2023年114ha(累計)	2023年10ha	1140%	第3期計画へ反映
		③林業家担い手育成者数	2021年3月0人	2023年7人	2023年8人	88%	第3期計画へ反映
		④2050年カーボンニュートラル協力金（仮称）	2021年3月0円	2023年0万円	2023年300万円	0%	第3期計画へ反映 引き続き調査研究を重ねる。

徳島県上勝町 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

（3）第 2 期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●特筆すべき事業内容 1－③(株)いどりにおいて、いどり農業の後継者育成を目的として就農希望者を募集し、人手の足りない農家に派遣し、農家のサポートをしながら、そのノウハウを学ぶプログラムを実施。平行して(株)いどりが耕作放棄地等を借り上げ、研修生の圃場の確保を行っている。 2－③2030年を目標としたゼロ・ウェイスト宣言を達成するためのロードマップとして、2021年度に第2期ゼロ・ウェイストタウン推進計画を策定し、これに則った事業を毎年実施している。これにより、上勝町のゼロ・ウェイストに関するブランド力を維持・向上させ、積極的に国内外に情報発信している。 3－②③森林環境贈与税を活用するため、一般社団法人かみかつ森林環境公社を設立。個人所有が多い当町の山林の管理委託に関する所有者への意向調査を実施し、調査結果を元に山林の材積や樹高調査を行い、主に保育伐採を行っている。研修生を積極的に受け入れ、業務実施と併せて担い手育成も行っている。
●成果 1－③(株)いどりにおいて、圃場整備や商品作りも就農希望者と一緒に行い、就農に至るまで全面的にサポートすることにより就農者が増加した。 2－③「上勝町＝ゼロ・ウェイストな町」という認識を広め、町の認知度を上げることにより、まずは移住の選択肢に入れる可能性を広げるとともに、上勝町でゼロ・ウェイストをコンセプトにした、 あるいはその考え方を取り入れた事業を現地で感じてもらうことにより、ゼロ・ウェイスト関連の新規事業所数が増加した。 3－②③個人所有の森林を借り受けることにより手入れが可能となり、整備面積を広げ、山林を管理する体制・サイクルが整いつつある。同時に担い手育成も行うことにより、後継者の確保にも繋げていく。
●課題 1－③人材不足が深刻であるため、引き続き取組みを推進する。民地のフィールドを確保するため、募集している状況である。 2－③町の収集・分別方法について、町民負担を軽減しながらどのようにブランドを維持していくか検討中である。 3－②③民地及び公共用地で取り組んでいるが、公共用地での圃場については広めていく用地がないため、引き続き民地において取組を推進する。 その他：新型コロナウイルス感染症の影響を引きずっており、いどり農業等体験プログラムの参加者数が伸びてこない。引き続き、コロナの影響に左右されないようなプログラムの開発について取り組む。 ゼロ・ウェイスト体験プログラムについては、プログラム開発しながら提供体制を整えているところである。ゼロ・ウェイストの取組みは多岐に渡るため、成果に関する情報収集の範囲・内容を再検討する必要がある。 カーボンニュートラル協力金（仮称）については、引き続き仕組み作りを調査研究していく。
●今後の展望 1－③現状の取組みを着実に進めつつ、フィールドの拡充・彩農業の後継者のさらなる育成に努め、新規就農者の増や、農家の事業継承に繋げていく。 2－③町民負担軽減とブランド維持のバランスを取りながら、町のゼロ・ウェイストを推進していく。その過程で移住者及び町内での起業者の増を目指す。 3－②③現状の取組みを着実に進めつつ、現在上勝町で林業に従事する人材が育ってきたら取組みを加速させたい。

（4）有識者からの取組に対する評価

・彩山(いどりやま)を活用した産業振興、③ ゼロ・ウェイストブランドを活用した循環型まちづくり事業を基本としながら、新たに季節を通じた滞在体験型の観光・研修・交流の促進を加え、移住定住だけでなく、研修や観光等の滞在型、往来型交流を促進して活性化を図ることに大いに期待したい。

・「町民負担軽減とブランド維持のバランス」というのは、地域にとって非常に重要な課題のように見受けられる。交流人口や移住者が増えれば予期せぬゴミが増える、といったことも考えられ、良い面だけではなく、現実的な課題も踏まえた、独自の計画と実行に今後も期待している。